



Mais Brasil★

平成24年度 ブラジル通信
 10月8日(月)~10月14日(日)
 No. 6
 発行者: 宮本 朋子

子どもの日の行事は、笑顔がいっぱい!

10月12日(金)は、ブラジルの『子どもの日』です。学校では、子どもたちのために行事をしたり、お菓子を作ったり、プレゼントを用意したりするなど、とても盛り上がりました。

ほとんどの学校では、週の初めから、中には10日前から毎日行事を行っている学校もありました。学校中を飾りつけ、映画鑑賞や運動会、学習発表会、レクリエーションなど、学校の特色に合わせた楽しい行事が企画されていました。そして、ケーキやチョコレートを食べたり、お菓子の入ったプレゼントをもらったりと、子どもたちにとっては夢の一週間でした。

また、パラナヴァイ市教育局からも子どもたちにプレゼントがありました。園児と1年生には、SESC(ブラジル商業連盟に属する社団法人が経営する施設)にてRua de Recreio(娯楽通り)が開かれました。巨大すべり台やエア遊具、トランポリンなど、子どもたちが遊べる遊具がたくさん設置され、元気に走り回る姿がみられました。2年生~5年生には、劇場にて『João e Maria Assim Assado』という観劇がプレゼントされました。内容は、グリム童話のヘンゼルとグレーテルを少しアレンジしたもので、子どもたちは夢中になって観ていました。ただ、初めて演劇をみる子どもが多かったようで、約50分の観劇の間、声をあげたり、ゴソゴソしたりと、最後まで静かにみることが難しく、先生たちは落ち着かない様子でした。

ブラジルの子どもの日は、子どもの成長を祝うというより、何でももらえて、何でもして 学年ごと色分けしてあります くれる日という感じがしますが、貧しい家庭にとっては、有難い行事だと思いました。

Santos Dumont初等学校の運動会



先生から手作りプレゼント



中にはお菓子が入ってます



先生、いつもありがとう！

ブラジルでは、特定の職業を対象とした記念日があり、10月15日（月）は、『先生の日』です。今年は、子どもの日に合わせて先生の日を行う学校が多くみられました。先生への感謝の気持ちを表した掲示や歌のプレゼント、もちろん甘いケーキもありました。また、パラナヴァイ市教育局から先生全員に、学校で着る服のプレゼントもありました。先生と子ども、お互いを祝福しあえる記念日は、とてもステキだと思いました。



感謝の言葉が書かれたメッセージボード



ケーキに囲まれて先生もにんまり！



歌のプレゼント



全員分の服



日本の教育制度に感動しました★

先日、ここブラジルで日本のような学校を開きたいという、熱意をもった1人の女性が私に会いに来てくれました。6年前、サトミさんは、夫とともに移住で豊橋に住んでおり、息子のペドロ君をひまわり保育園に通わせていました。当時は、保育園にとって、初めての日系ブラジル人の子どもだったそうですが、園長先生をはじめ、先生方がとても親切に対応してくださったそうです。また、子どもの教育についても、遊びを大切にしながら教育を進めている様子を知り、とても感銘を受けたと話してくれました。現在は、先生の免許を取るため、主婦の傍ら大学へ通っています。

人なつっこいペドロ君（4年生）



豊橋の思い出をいっぱい話してくれました

少しでも彼女の夢のお手伝いができればと、日本の幼稚園や保育園、小学校の教育制度について紹介しましたが、一番良いのは、実際にその現場を体験することだと思います。そこで、豊橋市が取り組んでいる研修員制度を紹介しました。彼女のような人こそ、この制度を利用してもらい、夢の実現に役立ててほしいです。



またまた
ぶらっとブラジルク・イ・ス♪

ブラジルの休日は、お店も休みになり、街中がとても静かです。しかし、薬局だけは、休日・夜間も開いています。

ここで問題！ ブラジルの薬局では、入口に必ず置いてあるものがあります。それは一体何でしょう？

- ①体重計 ②無料栄養ドリンク ③ダンベル



夜遅くまで開いており、市民の役に立っています

答え：①（ブラジルの薬局では、どのお店にも入口付近に体重計が設置してあります（写真中央）。そのため、来店した人だけでなく、通りすがりの人も気兼ねなく利用できるようになっています。健康を気にするブラジル人ならではの工夫ですね。）